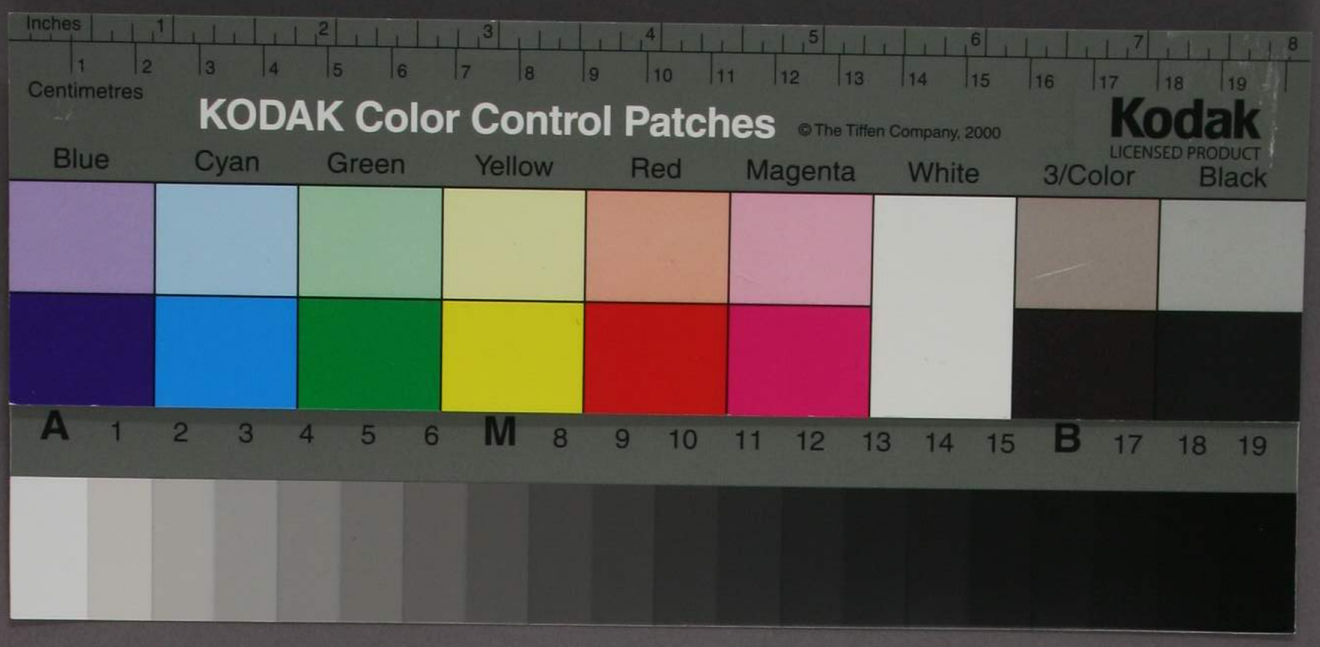
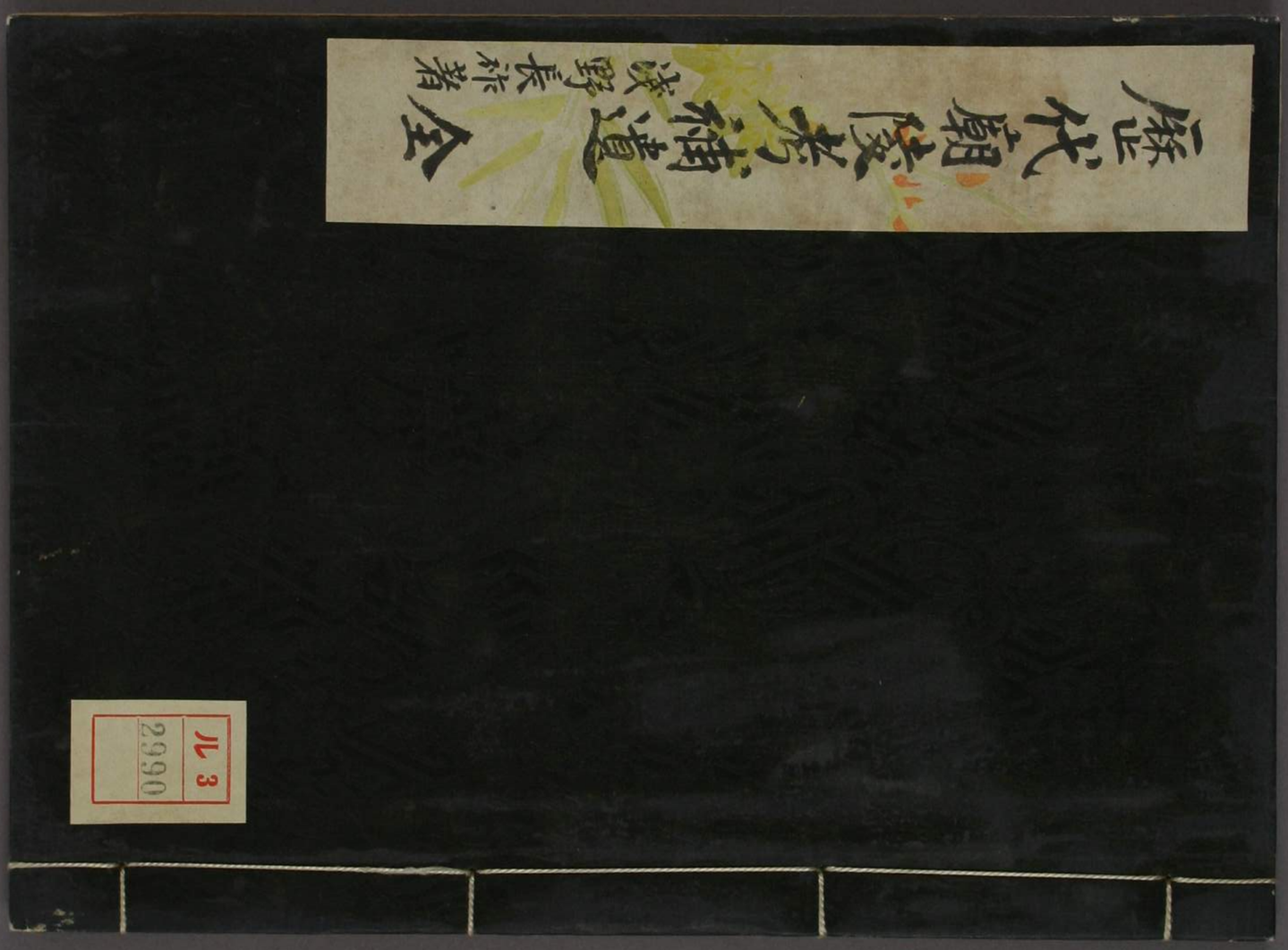

KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black


ル 3
2990

六五六

宮内省圖書寮

歴代廟陵考補遺

山城國

嵯峨天皇　陽成天皇　宇多天皇　村上天皇　圓融天皇　花山天皇　一條天皇　後一條天皇　後朱雀天皇

萱野郡北嵯峨大覺寺北御廟山　愛宕郡眞如堂門前西側人家裏

萱野郡仁和寺北大内山中宇多野　同郡平岡鳴瀧両村間字大法院山

右同所又同郡龍安寺領山春日谷上

同郡大北山村領字後田

同郡龍安寺領山字春日谷上火葬所

同郡大北山村領鏡石前

愛宕郡神楽岡東東北院中

萱野郡龍安寺領山字壬山右同所

不去五味均平藏

門　九3
號

後冷泉天皇
後三條天皇
堀河　天皇
土御門天皇
後堀河天皇
後亀山天皇

以上十五

右同所

同郡仁和寺院
同家尊壽院中
同郡龍安寺谷上領
山同郡日野
乙訓郡金寺原村
字愛宕郡京都
字春日原
来迎院
坂本
福田寺
蔓草
後鳥羽
泉涼寺塔頭
山陵
林宮
中小

帝陵火葬所共十七箇所

嵯峨天皇陵

一續日本後紀曰承和九年七月丁未日
太上天皇崩于嵯峨院春秋五十七
遺詔曰云〻擇山北岡僻不毛之地葬
限不過三日云〻穿院浅深縱横可容
棺矣棺既已下了不封不樹土与地平
便草生上長絶祭把云〻戊申日
山北岡僻之地定山陵以高布二千段
錢一千貫文奉充御葬料日御葬畢
一山槐記曰元暦元年八月廿三日己卯
今日被立御即位山陵使署於槇政亭

尤大辨経房公向嵯峨不知其所相尋
邑老之處大覺寺内北方山云：向件
寺之間一町餘車不通忽騎馬向彼所
拜了焼宣命歸亭

一皇年代畧記曰承和九年七月十五日
八五十　葬嵯峨院北山地

一山城志曰嵯峨山陵嵯峨在大覺寺御
廟山

今春ゆ水戸藩領内常陸國茨城郡小幡郷小幡峡大字石井の山字御前山と称する山頂の飛ちの岩山頂の平地乃ち字石井の字御前山と称する山頂の平地

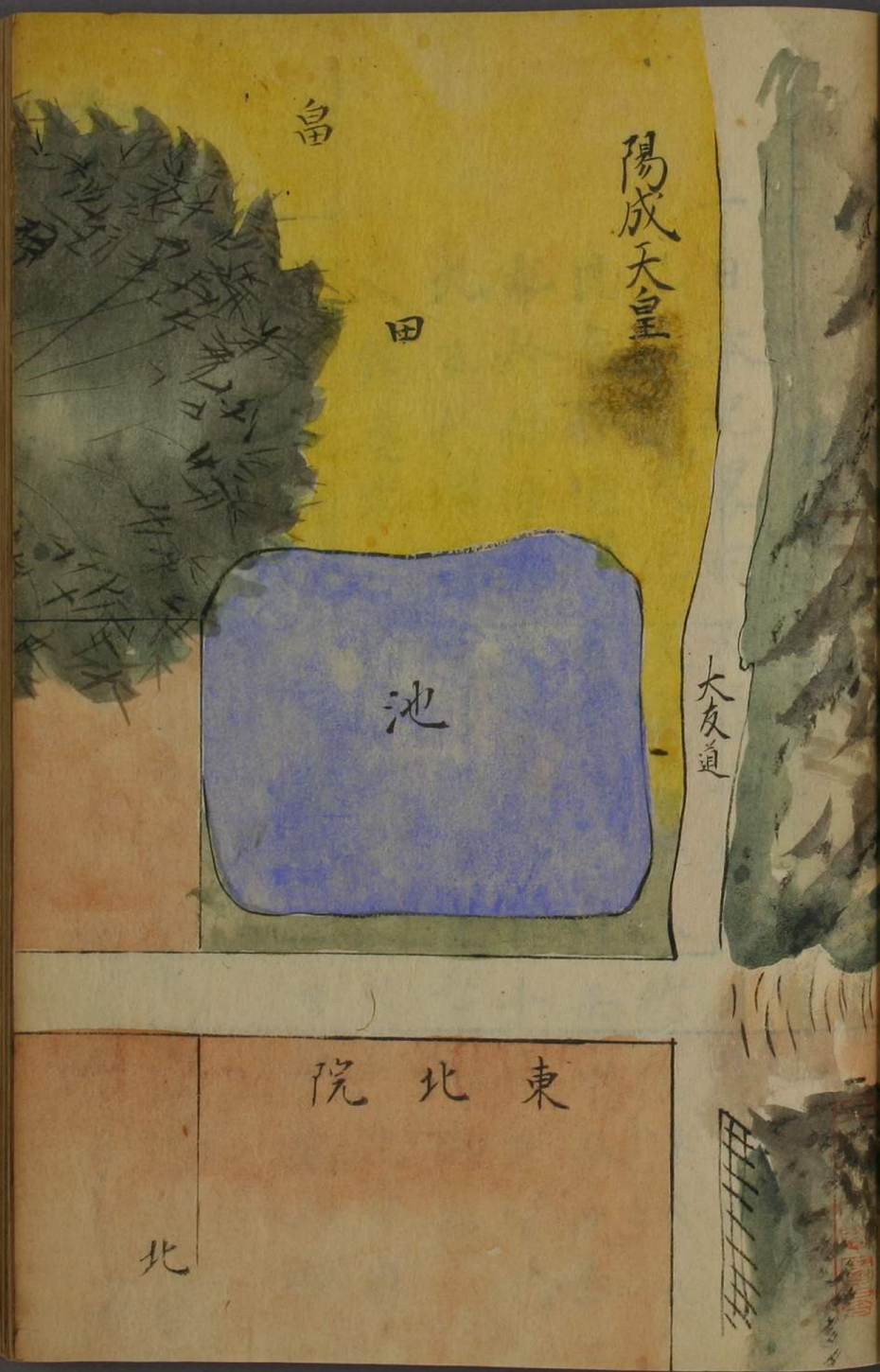
天保年間遠藤操山氏此地を穿院浅深幾尺可容指を指既已下ゆ木材土を地下ゆ使ゆ掘下て又完

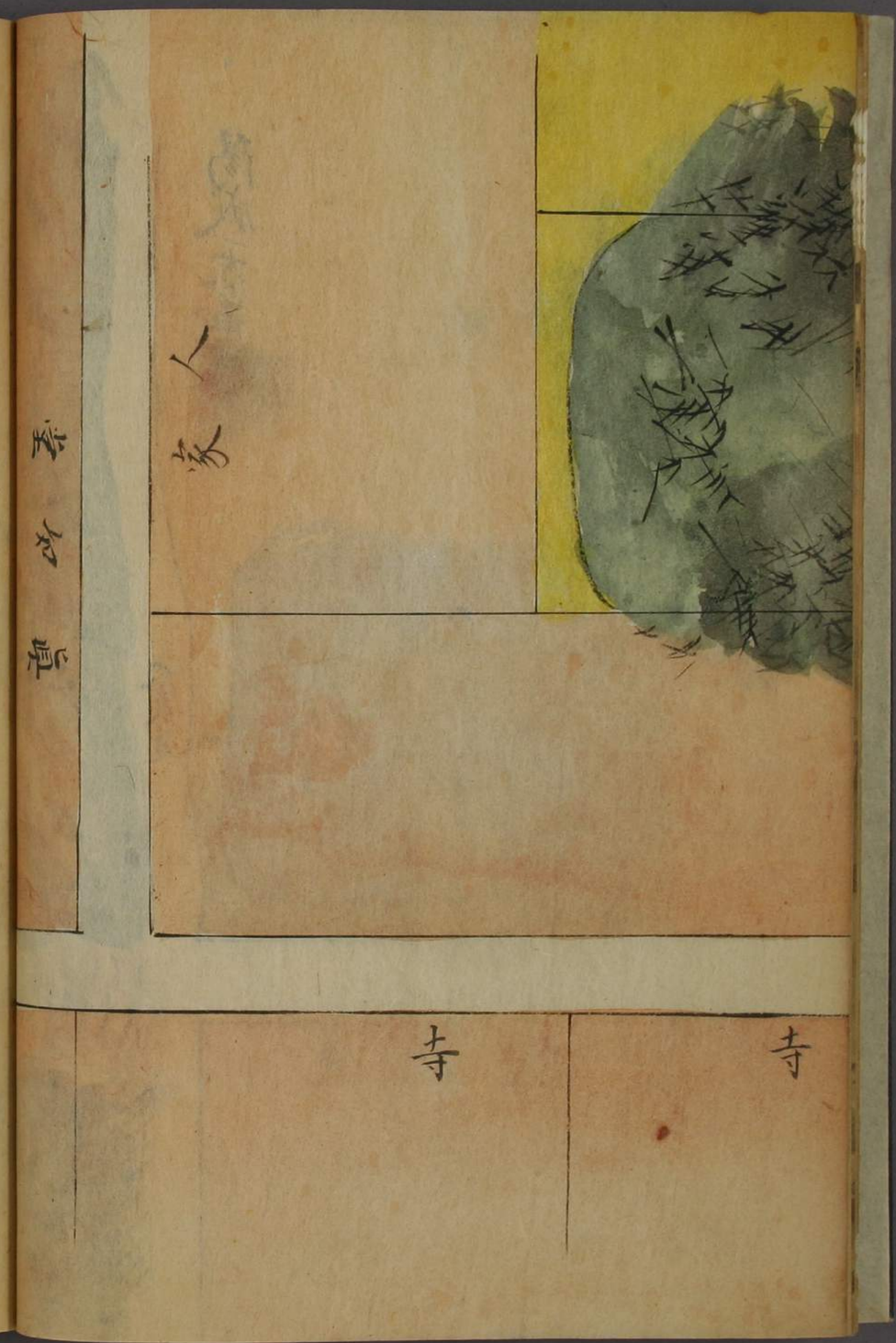
全る新古を者ゆ合へて（義を法ゆ乃ち二ゆ流の法ゆ出ゆ者を拙者乃ち法ゆ称ゆ之ゆ此ゆ法ゆ遠ゆ撰ゆ者ゆ拙者ゆ）

乃ち法ゆ（あらず）ゆ天保二年ゆの帝乃ち一ゆ夢乃ち御ゆ言ゆ者ゆ大

陸奥ゆ沙ゆ源ゆ者ゆ建ゆ（ラ）ゆ

法ゆ立ちゆ


畠
田
陽成天皇
池
大友道
東北院
北



陽成天皇陵

一日本紀畧曰天暦三年九月廿九日己巳北曉太上天皇崩于冷然院春秋八十二即奉移圓覺寺十月三日壬申今夜奉葬於神樂岡東地十一月十八日丁巳北日於圓覺寺修陽成院七〻御態

一大鏡裏書曰天暦三年九月廿九日崩于冷泉院春秋八十一同十月三日奉葬神樂地

今葬所ハ京ノ北ノ淩愛宕郡真如堂ノ前西側ノ人家ノ西裏ニ陽成神樂岡ナリ東西十一丁ニ三丁ニ餘リ南北

小九間くらの御堂口より西りの東西十間くらの塚あり俗に[illegible]の
[illegible]の御陵と云傳へり 淀上の樹木の一山陵生成する[illegible]の東表の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

宇多天皇陵

一日本紀畧曰承平元年七月十九日甲辰時宇多院太上法皇崩於仁和寺御室春秋十八大九月五日己丑夜奉火葬於大内山陵

一扶桑畧記曰承平元年八月五日火葬山城國菟野郡太内山依遺詔不造山陵不入國忌

一歴代編年集成曰承平元年八月五日庚申火葬菟野郡大内山陵仁和寺奥池尾山依遺詔不置國忌山陵

一御室相兼記曰寛平法皇陵袖倉上也

一花鳥餘情曰宇多院の山陵は仁和寺の西北

一[illegible]

一吉續記曰文永五年六月廿二日依異国事被發遣山陵使頭中將奉行也云々

大内山陵所不分明兼日委可兼其所之由雖相觸奉行職事了今不分明云々

入夜堀川宰相帰参内依無陵所於仁和寺中雖相尋夷無其所参御室尋申之處依遺詔不置山陵云々

一薩州府志曰宇多天皇陵在仁和寺北宇多野

今案ずるに[illegible]郡仁和寺の山の[illegible]を九山と[illegible]

山の東麓[illegible]多野と[illegible]の山は小倉の東傍にあり

南北二間東西[illegible]四間又幅

[illegible]

仁和寺の年代記に[illegible]

[illegible]

[illegible]

村上天皇陵
畠
田
畠
墓北山

圓融天皇陵
大法院山
領境杭
南
北邊一円松林

一　村上天皇陵

一日本紀畧曰康保四年五月廿五日癸丑己時天皇崩於清涼殿年十二四六月四日辛酉今夕奉土葬先皇於山城國葛野郡田邑郷北長尾中長字従通一本作本西四刺出御自陰明宣秋殿富門親王公卿以下供奉僧都觀理於内膳司南門勤御導師律法藏為咒願九日丙寅村上御陵可殖樹之由被左右衛門又可充陵戸但炮官符

一小右記曰永觀二年十月廿九日癸卯

辰時許參院令修御諷誦於七箇日寺家
巳時參御村上山陵公卿騎馬扈從云々
著御山陵留御車於鳥居外即下御余
候御劔前行之置御座鳥居中五六段許在御在所立
幔幄具上張幄公卿侍臣幄在鳥外即供御拜
了還御余特候御劔留御車於圖融寺
西大門下參給御堂
一山槐記曰治承四年七月廿一日於福
原被立山陵使云々村上八仁和寺長
云々
一扶桑畧記曰山城國葛野郡村上陵六月

四日葬之仁和寺也
一榮華物語曰御涙まことつひえぬ月
ぬるまもなし御さとの秋さて村上
さらぬ世なりのかなしさまいて
むなしなり
一清蛉日記曰五月ばかりにもなりぬれば
日のほどにかきたるひぬるをみるにいとあや
さるべくもあらぬものやうにて
ものなりて
ものやうにて
親殿の法方よりとてこれをつるてる
中をそるものみるにうるはしくよりて
やうのものにいとをかしうなりて

一山城志曰村上天皇陵山槻記杖来畧
記曽云仁和寺之長尾長尾乃鳴瀧村
村西有
御廟山
一山州名勝志曰士人云長尾者今鳴瀧
村也

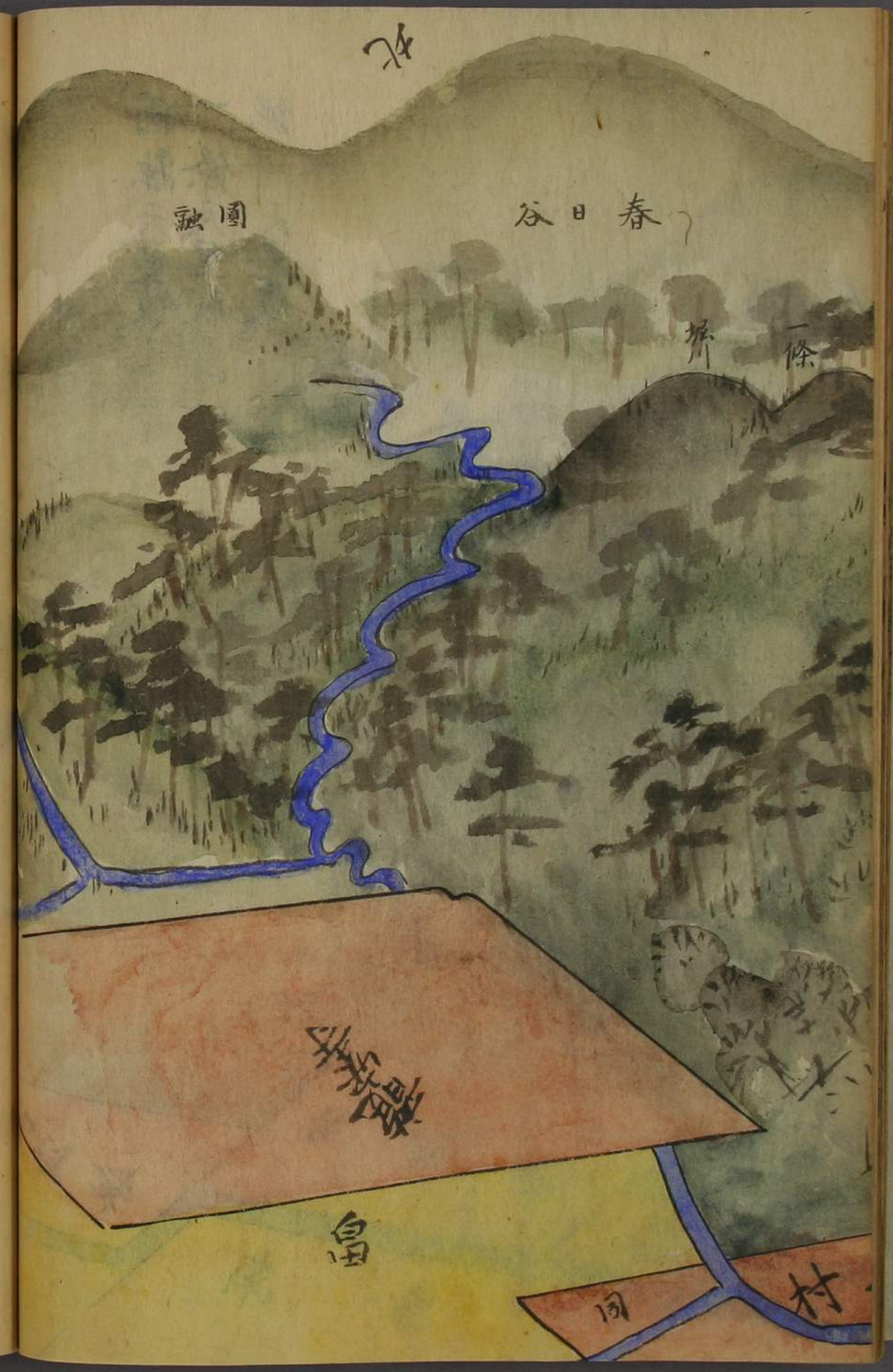
圓融天皇陵
一條天皇陵
堀川天皇陵
笠山
南禅寺

圓融天皇陵

一日本紀畧曰正暦二年二月十二日圓融寺法皇崩年十三十九日庚申葬太上法皇於圓融寺北原置御骨村上於山陵傍依遺詔倅素服翠衰國忌山陵

一皇代暦曰正暦二年二月十二日崩於圓融院年卅三十九日葬其谷北原置御骨於村上陵傍

一皇年代私記曰正暦二年二月十二日崩於圓融寺卅三十九日庚申葬於圓融寺北原置御骨於村上山陵傍成範権大輔菅原輔



正朝臣
持御賞

一栄華物記正暦二年二月十二日いとせうとのうせたまふ
乃とりの別つかまつる僧俗殿ノ人物哀なることを
流てよのいとかなしうかなしきことかぎりなし
ものしたまふ
一とせ法皇日の御ぶくのうちにやかて
かりのみやこの御ぶくのうちにて
のけさせたまふ
行成参議ノ人ノ
行成参議ノ人ノ
いそぎをしたまふ

一後拾遺集曰象院の法皇世をのがれ
給ひにける時せうとの
なくなりにける右大臣朝光
かけてのみ思ひそめしを
行成
うらうらの

一左経記曰寛仁元年十月廿日乙酉定
山陵使柏原武相円融 圓城寺茶毘 深草哭邑上天智 後邑上

一前王廟陵記曰或曰今雲林院東南天皇塚御葬送地
今案ずるに林院の野辺の山の南乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大陵ヶ[illegible]村上清[illegible]

御[illegible]

[illegible]

[illegible]

一條天皇葬畏所

畠田

東

一條天皇陵

一日本紀畧曰寛弘八年六月廿二日甲子崩于一條院十年二三七月八日己卯奉葬北山長坂野安置御骨於圓成寺

一歴代編年集成曰寛弘八年七月八日己卯葬北野永坂内本善寺前置御骨於圓成寺

一皇年代私記曰寛弘八年六月廿二日甲子崩於一條院中殿七月八日卯葬石陰暫安置御骨圓城寺後奉渡於圓融寺

畠田

一栄華物記曰寛弘年六月廿二日の[illegible]
[illegible]八日七月八日
乃東[illegible]
[illegible]
[illegible]

骨之處ト鎮圓融寺邊今日奉渡大宮
少進本任奉仕以戊刻奉還於圓融寺
北方圓融院邊也御其儀御骨壺奉納小塔
納韓櫃僧四人荷之

一

北山城名勝志曰今從鹿花寺門外傍山行立町許有大岩云鏡石其面有光如鏡疑是岩陰平又云長坂野在坂西北於此所奉大葬一條院云〻

一

京城勝覽曰鷹ヶ峯北町乃西に川乃ほとりの山乃下より金閣寺のほとりに移乃あとの西乃傍に鏡石あり人の移りいりて鏡のごとくかがやくゆえに石稱するなり

[illegible]

今案ずるに[illegible]野郡誌曰[illegible]
[illegible]山の西手[illegible]乃尾の[illegible]

堀川天皇陵

一歴代編年集成曰嘉承二年丁亥七月十九日崩于堀河院御年廿九同月廿四日葬香隆寺坤原安置御骨於同寺号堀川院

一皇代記曰嘉承二年七月十九日癸卯崩十堀川院十年二同廿四日戊申奉葬香隆寺東邊

一中右記曰天仁元年七月十四日參詣香隆寺云〻暫候殯斂之前小念誦之後參御墓所其西新造小堂云来奉安

置丈六千手觀音像阿弥陀佛像

一長秋記曰天永四年三月廿二日堀河
院御骨自香隆寺令渡仁和寺云〻右
宰相中將頭雅奉掛御骨越後守敦兼
出雲前司家保（共御乳母子）信乃前司廣房
式部大輔仲光（共判官代）入堂中從北役云
〻人〻入出陵溝中自午時及酉時奉
突埋此役立石塔（三重）

一百練抄曰天永四年三月廿二日先朝
御骨從香隆寺奉移圓融院

大北山村
花山天皇陵
西
北浄土寺法音寺屋敷
字後ノ田
畠
字堂ノ前
畠
北
西

畠

紙屋川

菩提樹

花山天皇陵

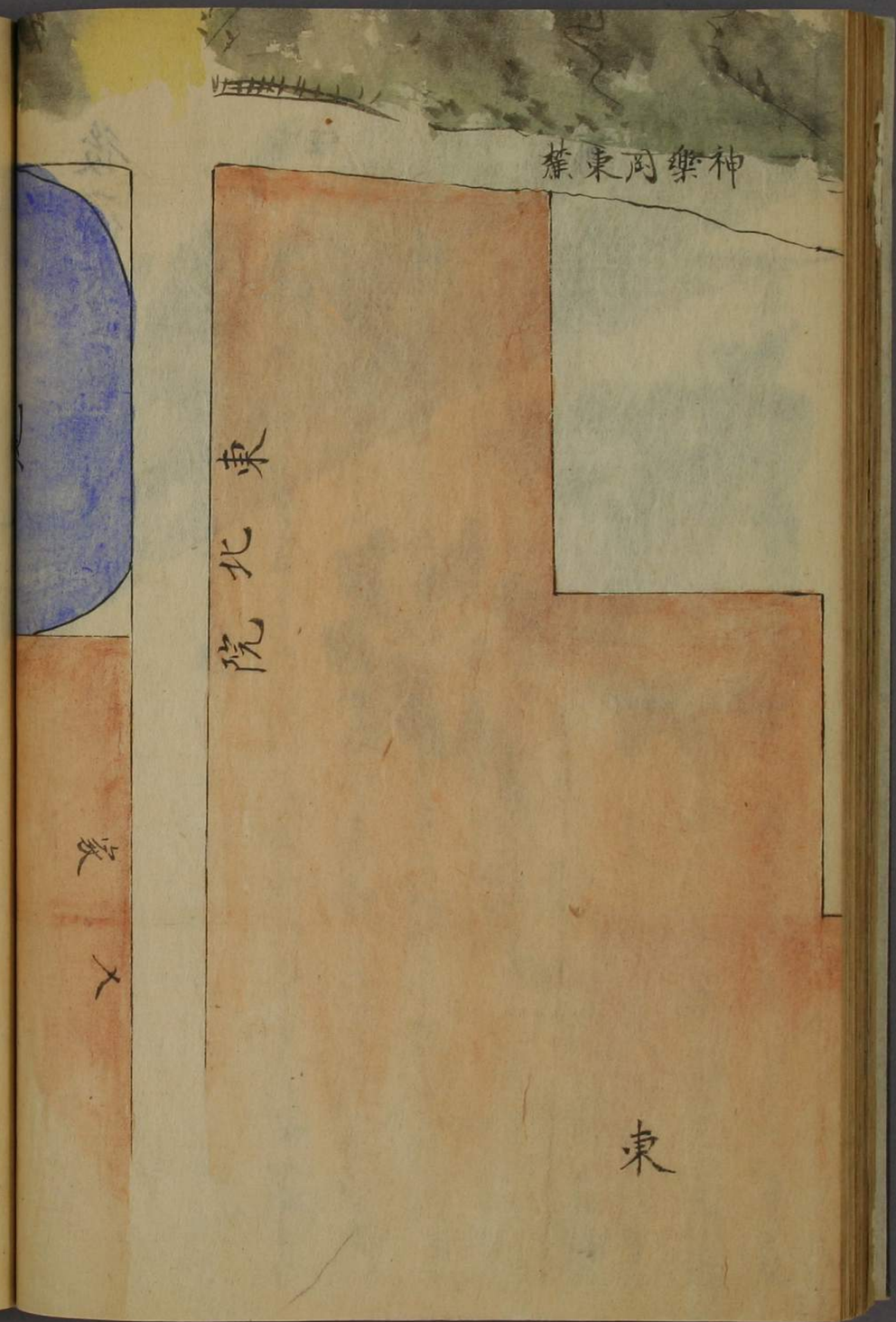
一日本紀畧曰寛弘五年二月八日己亥
今夜亥刻花山法皇崩年四十一十七日戊
申今夜奉葬於紙屋上法音寺北

一御堂關白道長公記曰寛弘五年二月十
七日戊申花山院御葬送大和寺東邊
云〻

一山城名勝志曰花山院陵紙屋川上法
音寺北大和寺東邊

今案京都大小路村の在家の東御紙屋川字[illegible]
の田[illegible]の花の木[illegible]陽字を堂の前[illegible]
[illegible]

後一條天皇陵



後一條天皇陵

一日本紀畧曰長元九年四月十七日乙丑戊刻天皇落飾即崩于清涼殿春秋二十九五月十九日丙申奉火葬淨土寺西原神樂岡東而也畧從今日立伽藍於神樂岡東名曰菩提樹院御葬之間長家以下拾御骨安置淨土寺

一百練抄曰長暦元年六月二日上東門院供養菩提樹院（後一條院御墓所号櫻本）裏書云長久元年十一月十日自淨土寺奉遷御骨於此院

一栄華物語二條院[illegible]故院御墓所より御堂立て七
[illegible]菩提樹院[illegible]東山[illegible]三昧堂[illegible]
[illegible]御堂[illegible]
故院乃御[illegible]
一歴代編年集成曰北帝男子不坐御女
二條院安置御影於菩提樹院
一扶桑畧記曰長元九年五月十九日葬
神樂岡東邊（今菩提樹院是也）
一拾芥抄曰菩提院神樂岡東
[illegible]
[illegible]

年[illegible]
[illegible]
[illegible]菩提樹院[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

後朱雀天皇陵
後冷泉天皇陵
後朱雀
龍安寺北椅高墳

後朱雀天皇陵

一扶桑畧記曰寛德二年正月十八日太
上天皇春秋卅七於東三條第崩二月
廿一日戊申葬高隆寺乾原置御骨於
圓教寺

一皇年代畧記曰寛德二年正月十八日
丸 御出家即刻崩於東三條 卅七 二月廿
一日帙火葬高隆寺乾原御骨安置圓
教寺參議左近中將弟修理大夫良頼
卿奉懸頸

一玉海安元三年四月條曰天喜六年二

月廿一日辛卯陵使（円乗寺後朱雀院）

一二東記曰圓乗寺後朱雀院陵之由頼

業所申也

一百練抄曰天喜三年十月廿五日供養

圓教寺新堂題号圓乗寺是先皇（後朱雀院）

御願米遂也

[illegible]

後冷泉天皇陵

一扶桑畧記曰治暦四年四月十九日庚

申寅刻天皇於高陽院中殿薨年四十四

五月五日丙午葬船岡西野安御骨於

圓教寺

一歴代編年集成曰治暦四年五月五日

丙子葬船岡西北原安御骨於仁和寺

山

一皇年代私記曰治暦四年五月五日丙

火葬船岡乾原御骨安置仁和寺圓教

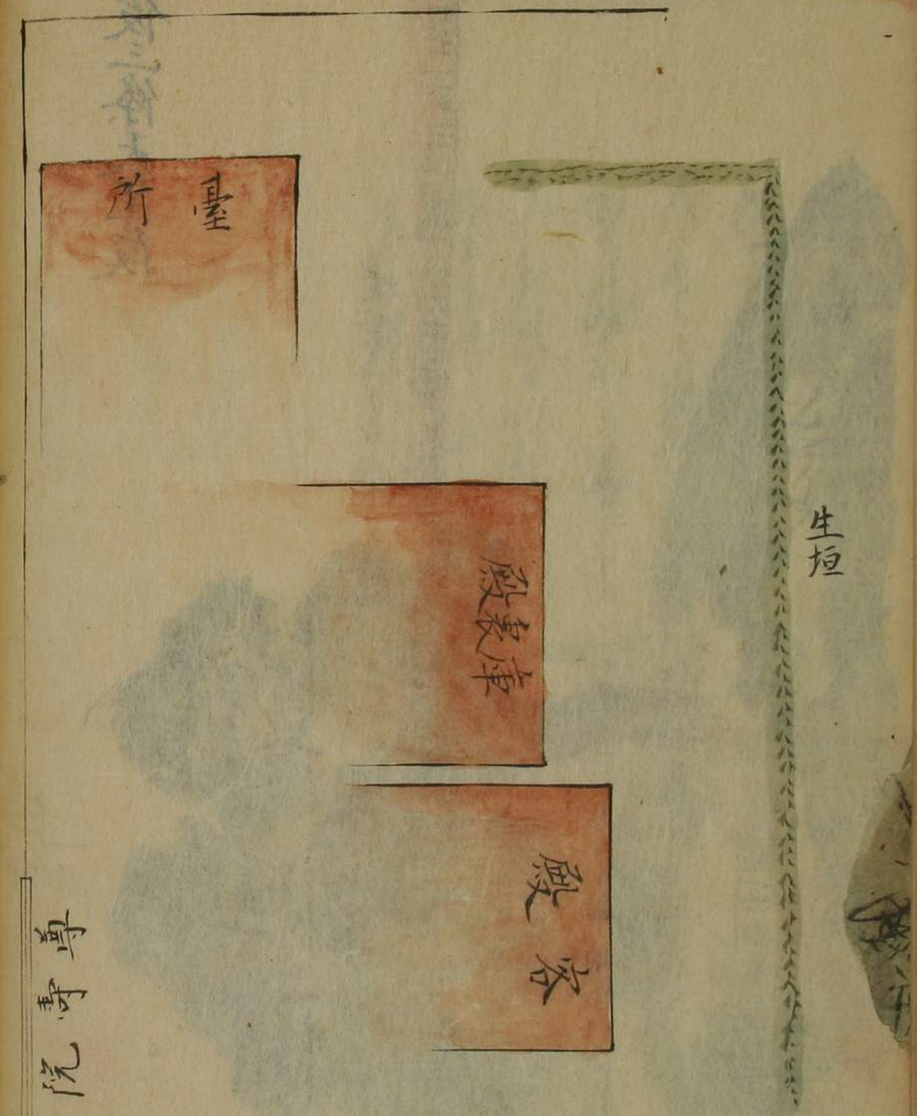
寺（皇年代畧記ハ円教寺ノ三字ヲ脱セリ）

後三條天皇陵

北宮本字円宗寺三四

今案ずるに堀河天皇陵の清涼殿の東南の方に当る堀河帝の御陵なりと雖ども仏説を以て霊廟と為し乃ち東北の方に当る高サ三尺ばかり周囲六間ばかり堀あり堀の内に松樹あり世人伝へて後朱雀院の御陵なりと云ふ後朱雀院の御陵は山城国宇治郡宇治郷にあり今此の地に在るは何の故なるか未だ詳かにせず

宮内省図書寮



後三條天皇陵

一扶桑畧記曰延久五年五月七日庚戌太上天皇春秋四十崩十七日庚申葬於神樂兵東原六月廿二日甲午於圓宗寺被修七〻御法事

一日本紀畧曰延久五年七月十七日火葬神樂岡南原安置御骨於禪林寺（武好云是依方忌暫奉安置也山陵者在葛野郡円宗寺也）

一皇年代私記曰延久五年五月十七日火葬神樂岡南原安置御骨於禪林寺（深覚大僧正舊房也）中納言源資綱卿奉懸御骨

一後愚昧記曰圓宗寺後三條院被建立
寺
一吉記曰壽永二年六月廿一日甲寅被
立山陵使圓宗寺（後三條院）
一吉續記曰文永十年七月晦日今日依
異國事被發遣山陵使圓宗寺參議源
朝臣雅言散位源朝臣雅範
一爲房記曰康和五年八月六日亦今日
申刻上皇被奉御書於後三條院山陵
（中略）相具次官出雲守忠清（院殿上人）向仁和
寺於後三條院御陵前讀之召大炊所
火燒之（有議不堪身隨御厨子所火）歸參不奏復命所
被寄仰也如此臨時事不可准荷前使
歟云々
一前主廟陵記曰円宗寺後世消歌其跡
号円宗寺林今円宗寺林在御室尊壽院東

後鳥羽天皇の系

土御門天皇陵

一編年集成曰寛喜三年十一月十一日
崩於阿波國御年三十七號土御門院
於增城有御八講

一一代要記曰奉火葬阿波國枚野郡里
浦藏御骨於京師西山金泉法華堂

一明月記曰天福元年十一月十一日辛
巳承明門院月来御経営金泉御堂纔
被終功依明日供養聖覚了明日渡御
御堂仆所被奉安故院御骨被立此御
堂御遺詔云〻

一平戸記曰仁治三年十月十一日庚申
於金原御堂自昨日被行御八講承明
門院昨朝入御今日故土御門院御國
忌也

一增鏡曰かの(寛元元年)十月十日、法勝寺の三塔と
大風吹きて、金原の御堂の瓦、みな吹き落されぬ。
後嵯峨の新院、いと心憂くなげかせ給ふ。

一吉續記曰文永十年七月晦日今日依
異國事被發遣山陵使金原宮内卿藤
原重氏散位源則雅
園大暦曰康永四年八月八日山陵使
金原土御門院四條宰相

一雍州府志曰金原陵在金原所納土御門院御骨之金原御堂是也

一山州名跡志曰金原在與海印寺村南七八町許金原寺亡滅所為字在同所氏居朝此所ハ土御門院母公承明門院ノ御廟ノ所ニ院ノ收ル所ニ立テ土御門院ノ御遺骨

陵墓未詳

後堀川天皇陵

一歴代偏年集成曰天福二年八月六日成時崩御年二十三同十一日奉葬觀音寺號後堀川院

一百練抄曰天福二年八月十一日葬于新熊野觀音寺法華堂

一皇代記曰天福二年八月六日戌刻崩年二十三同七日有御死号同十一日葬觀音寺北邊

一皇年代私記曰文暦元年八月六日崩廿三同八日自持明院殿奉移月輪殿葬之

明月記曰天福二年八月六日壬申黄
氏之程云〻驚而欲奉見之間御喉鳴
テヤカテ御氣絶同月十一日丁丑今
夕出御二定也中略今夕御路出北面自
當時門前之樹東路自南總門前室町
ヲ南行北小路ヲ南行土御門ヲ東行
高倉ヲ南行六條ヲ河原ニ出テ如去
年御路最勝光院南ヲ觀音寺大路也
中略朝聞御士葬後鷄鳴又〻帰參鬼殿
御佛事云〻萬事禮法甚以等閑定又
無御墓所沙汰歟

後亀山天皇陵
此邊墓所也

後亀山天皇陵

一薩戒記目録曰應永廿九年七月十五日小倉殿御入滅事同月十七日同御葬礼事

一和漢合運曰應永廿一甲辰四十二後亀山崩

一南方紀傳曰應永廿一年夏四月十二日小倉殿崩御南方御ヲクリ名後亀山院

一山州名跡志曰後亀山院陵在福田寺内西方五輪石塔西向九右二塔アリ不詳福田寺在愛宕山小坂寺東面宗旨浄土始禅宗也二十余年来為今宗寺

記詳不

山城名勝志曰士人云愛宕山一鳥居
傍有亀山院陵在北嵯峨福田
後亀山寺城忌曰後亀山廟也其堂後有吉石塔北塔
山寺有神牌書曰數文中二年即位明
德二年閏十月一日入洛潛居究竟應
永三十一年四月十二日崩葬尊嚴於
當寺而築

[illegible]

右歷代廟陵考補遺著京町奉行浅野中務少輔
長祚以安政二年五月述作之而所達公聽也余
聊預其事故竊乞勝寫之嗚呼欲繼絶興廢之意
豈敢不可有不賞之耳

安政二乙卯年十二月十五日　中臣連胤誌

圖書寮本　歷代廟陵考補遺附圖にて

附記ス

[印]